

体験型海外教育実地研究 第5学年異文化理解「Japanese culture FUKUWARAI☆」
教育学研究科学習科学専攻学習開発基礎専修 森 俊郎

1 はじめに

受講の動機は、もっと教育を勉強したいと思ったという単純なもの。海外の教育について文献などでは知ることはできるが、実際に自分の目で見て体験して勉強したいと考えたから。金銭的な面での負担は大きかったが、うちの親父が「世界へ出ろ。世界は広いぞ。教師は人間の器の大きさだ。金なら心配するな！少しなら出したる」と言われたので申し込みをした。

2 実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	泊
4/11	火	1210-1240 L304	履修等、説明会	
5/31	木	1435-1605 L304	オリエンテーション ミニ講演会・フォーラムの打ち合わせ	
6/8	金	1300-1500 C527	ミニ講演会	
6/9	土	1300-1730	広島ガーデンパレス 第3回学校間交流国際フォーラム	
7/5	木	1435-1605	事前研究1 個別研究テーマの設定 授業実践研究の内容と方法 日本文化の紹介(エクスプローリス・ミドルスクール) について内容と方法の打ち合わせ	
8/2	木	1435-1605	事前研究2 授業の教材開発と指導法研究 指導案・教材・教具の交流と検討	
8/30	木	1330-1605	事前研究3 指導案・教材・教具の交流と検討 日本文化の紹介(エクスプローリス・ミドルスクール) について内容と方法の打ち合わせ	
9/11	火	1435-1700	直前打ち合わせ 日程などの確認 渡航準備 日本文化の紹介(エクスプローリス・ミドルスクール)の内容と方法	
9/15	土	広島-成田 0745-0925 (NH-3128) 成田-ワシントン 1110-1040 (NH-2) ワシントン-ローリー 1240-1359 (UA-459)		米国ノースカロライナ州 Raleigh Marriott Crabtree Valley 4500 Marriot Dr, Raleigh, NC27612 TEL(919)781-7000 FAX(919)781-3059
9/16	日		East Carolina University	Greenville

			事前打ち合わせと準備	<u>City Hotel & Bistro</u> 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC27834 TEL(877)271-2616
9/17	月		G.R. Whitfield School (Ms. Pam Justesen) 学校見学	Greenville 同上
9/18	火		G.R. Whitfield School (Ms. Pam Justesen) 授業実践 リトルワシントン観光	Greenville 同上
9/19	水		Duke University	Raleigh <u>Sheraton Raleigh</u> 421 S. Salisbury Street Raleigh NC27601 TEL (919)834-9900
9/20	木		Exploris M.S. 日本文化の紹介 Exploris Museum Natural Museum	Raleigh 同上
9/21	金	ローリーーワシントン 1025-1131 (UA-7139) ワシントンーニューヨーク 1230-1351 (UA-7365)	ニューヨーク観光	New York <u>Raddison</u> <u>Lexington Hotel</u> 511 Lexington Avenue 48 th Street New York 10017 TEL(212)755-4400
9/22	土		ニューヨーク観光	New York 同上
9/23 9/24	日 月	ニューヨークー成田 1230-1525 (NH-9) 成田ー広島 1725-1900 (NH-3129)		機内泊



図 行きの飛行機の中にて

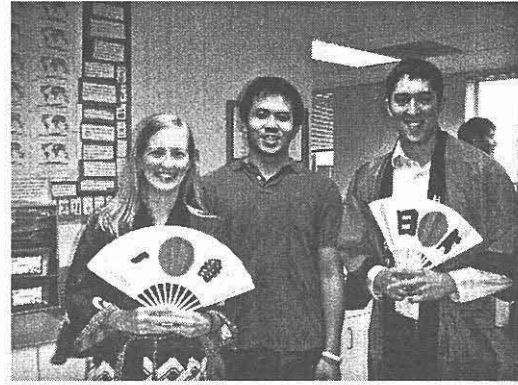


図 エクスプローリスにて

3 実地研究授業

3. 1 単元名 第5学年異文化理解「Japanese culture FUKUWARAI ☆」

3. 2 事前準備

個人的に授業を通じて、笑うなどのポジティブな交流体験を、自分含め、訪問先の子どもたちとしたかった。そのポジティブな交流ということと、日本文化の紹介ということとを考慮すると、福笑いがよいのではないかと思いつき、授業の教材とした。事前準備としては、訪問するまで対象学年が分からなかったため、福笑いの提示資料などある程度の準備はしておき、あとは現地に着き、訪問先の教員との話し合いの中で授業を計画し、準備を行った。

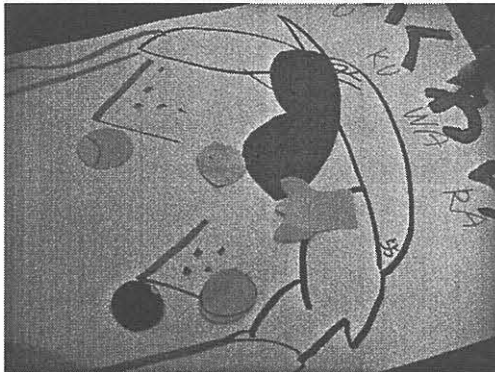


図 福笑いの教材



図 訪問先での写真

3. 3 学習指導案

Title Laugh and grow fat

Target grade 3~7

Purpose of the present lesson

(1) Purpose of the present lesson

- ・ Enjoy Japanese traditional game FUKUWARAI
- ・ Know that smile and laugh is humanity universal through enjoy FUKUWARAI

(2) Articles and equipment to prepare

mask of HUKUWARAI, towel, drawing paper, magic marker

(3) Teaching procedure

	Learning activities	Teaching activities	Aids
	<ul style="list-style-type: none"> ○ Any volunteer try FUKUWARAI ・「Oh, it's very funny!」 ・「I want to try!」 ○ Try make FUKUWARAI. Some group make face part(eye, nose, ear eyebrow, mouth) ○ Challenge FUKUWARAI ○ Write a paper student's feeling about this class 	<ul style="list-style-type: none"> ○ Self introduction with mask of FUKUWARAI ○ Introduction Japanese game FUKUWARAI ・ Challenger must cover his face with towel ・ Another student can advise to challenger can achieve FUKUWARAI ・「Laugh and grow fat」 ○ Teacher divide student off some group. ○ Introduce some FUKUWARAI each other. ○ Teach that smile and laugh is humanity universal. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ mask ・ big FUKUWARAI to presentation ・ drawing paper and magic marker

3. 4 授業の実際

授業は、まず、FUKUWARAIの紹介をした。教師がオカメの仮面をかぶり、登場し、自分の顔のパーツ（眉毛、目、鼻、口、ほっぺた）をつけるのを忘れたという設定で寸劇をしながら、のっぺらな顔に、顔のパーツをくっつけるという取り組みを提示した。出来上がったオカメを福笑いという日本の伝統的な遊びの、代表的な顔であるということを紹介した後、見本として全員の前で実際に、代表の児童一人に福笑いを遊ばせた。

児童が福笑い遊びのルールが理解できたところで4人1グループになり、それぞれの顔の輪郭に合わせ、創意工夫をこらし、顔のパーツを作る。1人1パーツを基本とし、完成し次第、ゲームに取り掛かる。

各グループ福笑いで用いる顔のパーツを完成させ全員が目隠しをして取り組むことができた。最後に、本日の授業の振り返りとして、感想シートを書かせた。



図 授業での様子

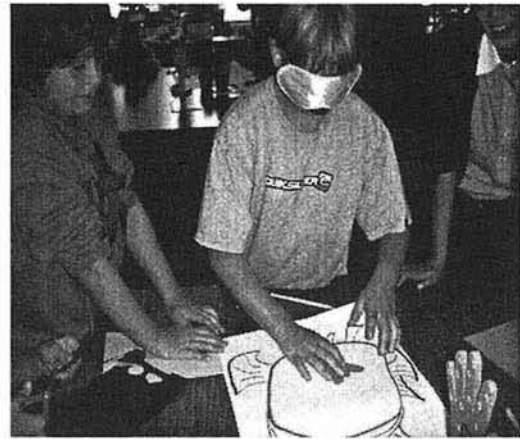


図 福笑いを取り組む児童の様子

3. 5 考察

笑い・楽しむという感情に関して、人間の文化差があまりないためもあってか、児童たちは福笑いを存分に楽しむことができていたように感じる。また、ゲームに取り組んでいくにつれ、「ひげをつけていいか?」や「アクセサリをつけていいか?」などの質問が出て、児童の意欲的に取り組む姿を見ることができた。授業の感想シートには、「fun」や「exciting」、「enjoy」などが書かれてあった。その他には、「いく日本!! (日本語)」など日本に興味を示す内容が多く書かれてあった。また、教師に対して、「my friend」、「see you again」など我々訪問者と交流ができたことを喜ぶ感想が多く書かれていた。総じて、福笑いを楽しむことを通じて、日本に興味を持つこと、ポジティブな交流体験を多くの児童ができたと考えられる。しかし、授業の後半に、グループでの活動が遊び終え、落ち着いた印象を受けた。自身の授業の課題と感じられるのは、グループでの活動時間を十分にとろうとした結果であったが、授業後半では、臨機応変に、各グループでおもしろい顔を発表し合うなどしてクラス全体の交流を行ってもよかったと考える。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4. 1 教育観の変容

訪問先での一つ一つが自分にとっては新鮮で考えさせられることが多かった。当然のことではあるが、子どもたちのことはじめ教育に関してアメリカと日本で共通するところ、そして異なるところがあった。訪問先のみでアメリカの教育と考えるのは大きな誤解をしてしまうことも多いであろうし、自分の中での日本の教育と比較して考えるのも誤解を生じる。アメリカにももっと色々な教育のあり方があろうし、日本にも色々な教育のあり方があると思う。今回の訪問で、教育の普遍性、そして多様性を改めて感じる事ができた。

4. 2 自分自身の変容

「教育は人なり」と言われるように、教育は教師自身の人間性、また人間理解の根底に関する考え方が重要なものであると考えている。当然のごとく、すべてがそのように考えるわけでもないし、教育に関する知識、スキルがなければ、教育は円滑に行われれないと思われるのだが。人生経験はじめ教養など含めた人間の器の大きさが今回の訪問で大きくなったと思う。

4. 3 グローバルマインドに関する変容

グローバルマインドというものが果たして具体的にどういったものかは自分には未だはっきりとしないものではあるが、今回の訪問で、自分の中で世界に対して感じたことは、世界は広いということで、その多様さ、そして普遍さがある。この世界はおもしろいものであるとも感じた。

5 おわりに

表現能力が非常に下手でなかなか文章でも伝えたいことが伝えられなかったと思うが、今回のような体験型海外教育実地研究に参加でき、大変よかったと思う。教員養成を目的に、この事業にあたって多くの方々のご協力の下、自分は多くを学ぶことができたと思う。とくに引率して頂いた小原友行先生、深澤清治先生、朝倉淳先生、神山貴弥先生には厚く御礼申し上げたい。